

「インタビューした人」

大和勲県議

【担当】

高崎経済大学 三年 早川貴彦
高崎経済大学 三年 白崎大雅



Q 何故、県議会議員になろうと思いましたが？

私の家系が政治家に関わりがあったことがきっかけです。曾祖父が村長をしていたことを、小さい頃から家族の歴史として教わっていましたし、大和家が地域の人から政治一家だったと

いうことは知られていたことが影響していました。また、自身がPTAに携わり、いろいろな人と関わり合ってきた経験から、そのような仕事をしたいと思ったことがきっかけとしてあります。

Q これまでの取組みを教えてください。

政策提案として、福祉面においては、子ども園の拡充や保育士試験の試験回数を増加させたり、就職支援センターの開設を行ったりしました。その他には、地元伊勢崎の堀口交差点の改良を群馬県の県土整備プランに盛り込んでもらうことに尽力したり、夜間中学校の設置請願書を提出したりしました。

Q 最優先に対策したいことは何ですか？

やはり、人口減少による少子化対策です。解決手段としては、保育施設を拡充して、子育てしやすい環境にしたり、企業誘致をして、雇用創出し、定住・子育てしてもらったりすることが大切だと思います。

Q 県議会議員になって良かったことや苦労したことはありますか？

県議会議員は人の役に立つことが仕事ですのでも、県民の皆様からいただいた要望を叶えて、感謝された時には、県議会議員になって良かったと思えます。苦労したことは、県議会議員同士で意見をまとめ上げることです。私が所属する自由民主党は群馬県議会に三十名在籍してい

るため、多数の意見をまとめることは大変です。

Q 県議会議員に必要な能力は何ですか？

県議会議員は住民の意見を行政に伝えるパイプ役で、執行ではなく議決権を有するものであるため、政策提案を積極的に行うこと、行政の監視、議会や議員の見える化などに取り組む姿勢が求められると考えています。

Q 大和議員の選挙区である伊勢崎市では、近年外国人労働者が増加傾向にあるとのことですがこれは地域福祉にどのような影響を与えていますか？

外国人材に関しては、現在人手不足が深刻化している地域福祉の担い手として活躍が期待されています。一方で、定住された外国人の方々も高齢になれば福祉を受ける側になるため、将来の人手不足がますます深刻化するかもしれません。また言葉の壁による意思疎通の難しさ、文化の壁もこれから問題になる可能性があると考えています。

Q 大和議員は高崎経済大学の出身ですが、政治家をされるうえで役に立っていることはありますか？

群馬県内の経営者や県庁職員に高経大の出身者が大勢いらつしやるため、同窓生として気軽に意見交換できています。また、県庁においては、高経卒の議員と県庁の管理職が集まる懇親会が開かれるため、そのような会に出席して関

係を築くことは、仕事をする上で有利に働くと思います。

次に、大学では、民法系のゼミに所属していましたが、大学での講義で学んだことよりも、例えば、サークルを立ち上げたというような課外活動の方が、現在の政治活動において役に立っていると感じています。強いて言うならば、英語をもっと勉強し、話せるようになっておけば良かったと思っています。

Q 社会人時代の経験は県議会議員の職務に生かされていますか？ また、生かされているとしたらどんな場面ですか？

県議会議員になる前はベイスシアで勤務していましたが、そこでは物を粗末に扱うことで損が発生するということを痛感し、無駄は少しでも省かなければならないというコスト意識を身に着けました。また、前向きに考えることや、経験上できないと思ってしまうことでも、一度立ち止まって勉強をし、何かできる方法がないか考えることの大切さも学びました。その他にも、小売業界ということで、特に数字で話すという習性が身についたと思います。

Q 県議会議員はプライベートな時間や場所が確保されていないような印象があるのですが、実際はどうなのですか？

休日は、議会は開かれませんが、地元で行事が行われることがあり、仕事はあります。また、

街中で支持者の方に声をかけられることもありますが、その方々からすれば、私自身に会える数少ない機会である訳ですから、休日でもお話ししたり、ご質問にお答えしたりしています。私はいくつかしたことでも仕事だと思っているのですが、ストレスには感じません。プライベートを確保したいならば、自身で「オフ」を作ることが大切だと思います。

Q 最後に、若者に伝えたいことはありますか？

政治は変えられるということです。政治は経済にも影響を与えますので、皆さんの生活にとっても政治は切り離せない存在です。とてもやりがいのある仕事ですので、皆さんも、将来政治家を目指されてみたいかがでしょうか。本日は本当にありがとうございました。

「編集後記」インタビューを終えて

私は、群馬県議会議員であり大学の卒業生でもおられる大和議員にインタビューをし、県議会議員の仕事や裏話などいろいろなお話を聞くことができ良かったです。私たちが後輩ということもあり、優しく楽しくインタビューに答えていただきました。

大和議員は、若者の政治参加に関心を持たれており、「GACHI(ガチ) 高校生×(かける) 県議会議員」政治を知らないきやソンをする！」の参加学

校の増加に取り組みられていることも知りました。

県議会は国会、市町村議会と比べて知名度や関心が低く、「キヨリ」感があり、仕事内容が想像しづらいと思われるのですが、このような活動を通して市民と県議会の「キヨリ」が縮められるようになればと思います。(早川 貴彦)

今回のインタビューの中で大和議員は数字で物考えることやコスト意識を身に着けることなど民間企業で就業した経験が議員生活に役立っていると語っており、多種多様な立場や職種の人たちが政治に参加することによってより良い政治ができるようになるのではと感じました。

また最優先に取り組みたい課題として県全体としての人口減少を上げており、今後様々な分野で人材不足が進展していく中で、県全体としてどのように対応していくのか注目していきたいです。

(白崎 大雅)